

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 (①修04-11-1/5)

目 的

近代の文化遺産は、従来の文化財とは、規模、材質など大きく違い、その保存方法や使用材料なども同様に違いがある。本研究では、その様な近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。また、保存修復だけでなく、活用方法についても、調査研究を行い、保存の方法や修復の進め方などにおいてよりよい状態で保存できるようにすることを目指している。

成 果

今年度は近代化遺産の中でも近代建築に使用されている油性塗料を主なテーマとして研究を行った。保存修復に実際に携わっている担当者の方々3人と国外の方1人を招き、近代建築に使用されている油性塗料に関する研究会を平成24年2月10日に東京文化財研究所地階セミナー室にて実施した。さらに、台湾における展示物の保存方法や資料の修復手法について、現地にて情報交換を実施した。

国内においては新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡、静岡県伊豆の国市の葦山反射炉、山口県萩市の反射炉など史跡指定された近代化遺産の保存状況と劣化状態に関して現地調査を実施した。さらに、屋外展示されている鉄道車両や航空機等の金属を主体とした文化財についても同様に現地調査を実施した。加えてそのような屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために各種サンプルを作成し小樽市総合博物館、船の科学館、かかみがはら航空宇宙科学博物館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地での曝露実験も継続して実施している。これらの地点では、試料の受けた紫外線量をはじめ、温度、湿度などの測定も行い、これらの塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。屋外展示航空機の環境測定も継続している。

- ・国内調査施設：大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地、知覧特攻記念館、万世特攻平和祈念館、小樽市総合博物館、新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡、静岡県伊豆の国市の葦山反射炉、山口県萩市の萩反射炉、航空自衛隊入間基地（修武台記念館）、博物館明治村、都立第五福竜丸展示館等

論文

- ・中山俊介、森井順之「Conservation, Restoration and Utilization of Modern Cultural Heritage in Japan」『COLLECTION OF EXTENT ABSTRACTS The Second Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia』pp.111-112 12.3
- ・中山俊介、大河原典子、池田芳妃、安部倫子「フィルム音帯の修復手法の開発」『保存科学』51 pp.243-248 12.3

発表

- ・中山俊介「近代建築に使用されている油性塗料に関して」第25回研究会「近代建築に使用されている油性塗料に関して」東京文化財研究所 12.2.10
- ・中山俊介、森井順之「日本に於ける近代化遺産の保存・修復及び活用」東アジア文化遺産保存学会第2回学術研究会 内蒙古博物院、フフホト・中華人民共和国 11.8.16-18

研究会

- ・第25回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代建築に使用されている油性塗料に関して」東京文化財研究所 12.2.10

刊行物：・『音声・映像記録メディアの保存と修復』東京文化財研究所 88p 12.3、・『Conservation and Restoration of Concrete Structures』東京文化財研究所 111p 12.3

研究組織

○中山俊介、森井順之、池田芳妃（以上、保存修復科学センター）、横山晋太郎、長島宏行（以上、客員研究員）